

Title	こうやって教えよう小学校英語！現場からの提言：Effective Elementary School English Teaching（総合研究所 News：2009 年度第 2 回小学校教師のための英語指導法セミナーElementary School English Teacher Training Seminar 地域の小学校教師応援プログラム）
Author(s)	聖学院大学総合研究所
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.19-4：24-27
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/refs/modules/xoonips/detail.php?item_id=2344
Rights	

聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

費用 500円（資料代として）定員 50名

【プログラムと概要】

2011年度からの公立小学校5・6年生の英語（外国語）活動必修化に向けて、多くの教師が不安を抱いている。担任教師が自信を持って英語活動を始めることができる具体的な実践法を紹介し、すぐに使えるオリジナル教材を提供した。

◆講師 藤原真知子 聖学院大学総合研究所特任講師
ブライアン・バード 聖学院大学総合研究所特任講師

◆セミナーの内容 Contents

英語が楽しく身につく教授法の紹介

すぐに使える英語アクティビティー

English activities and games you can use right away !
簡単に覚えられる英語を使って日本の文化・習慣を紹介Teaching Japanese culture using easy English.
物語を英語の授業に取り入れる（英語ノートから）Teaching stories using easy English.

【結果の概要】

- ・全体参加者38名、アンケート回答者は29名。
- ・今回、小学校教育関係者、特にクラス担任の方が多く参加し、高い意識を覗えた。
- ・前回アンケートを参考にし、開催曜日と時間を調整した結果、小学校クラス担任の参加者の比率は増加。
- ・指導上の不安については、「あまり無い」「全く無い」と答える参加者はいなかった。
- ・内容については参加者の好評を得た。
- ・メインとなった日本文化を取り入れることにも「親しみやすい」などの感想があった。
- ・今回、知り合いからの紹介で申し込んだ参加者が25%となり、徐々に周知されるようになってきたと言える。

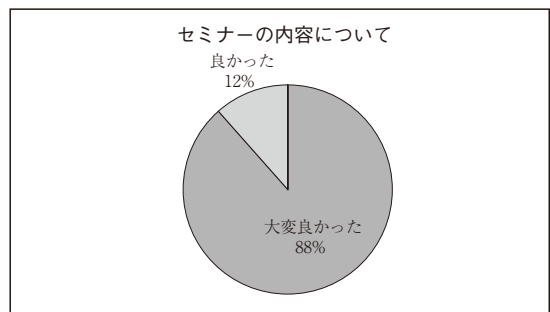
2009年度 第2回

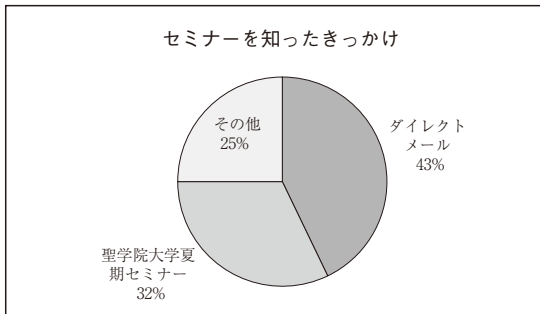
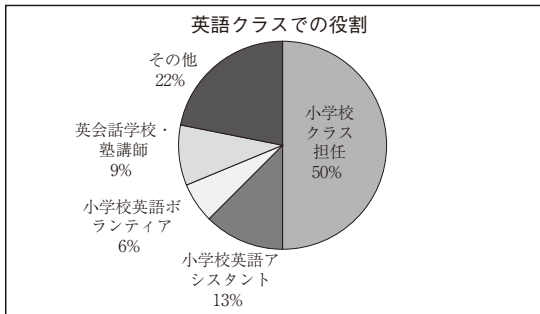
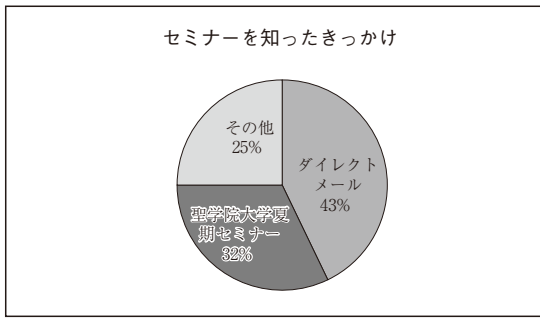
小学校教師のための英語指導法セミナー
Elementary School English Teacher Training Seminar
～地域の小学校教師応援プログラム～
こうやって教えよう小学校英語！現場からの提案
Effective Elementary School English Teaching

実施結果—アンケート集計結果の概要

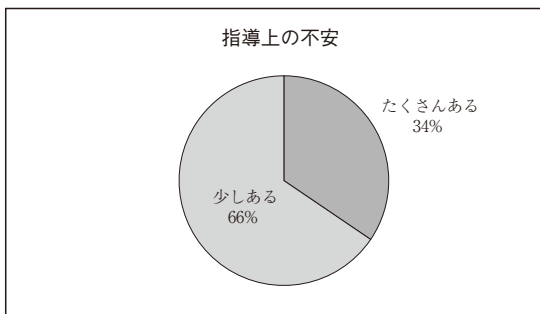
日時 2009年10月24日(土) 9：30～11：30

会場 新都心ビジネス交流プラザ 4階会議室C





2.児童に英語を指導する上で現在困っていること・不安に思うことはありますか。



1 教材不足

はじまったばかりの領域であるので、これまでのストックがなく、毎回作っているような状態

2 ALTとの関わり方

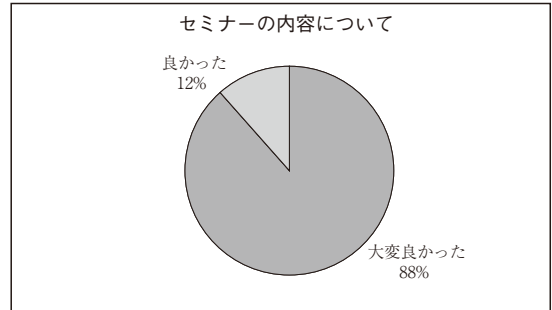
担任教師と直接打合せをする時間がなく、主任が打ち合わせたことを伝えている。微妙なニュアンスやテンポなどは直接の人間関係があっ

こそ出てくるので、授業が結局ALT主導の形となり、担任のストレスや負担になっていると感じている。

3 その他

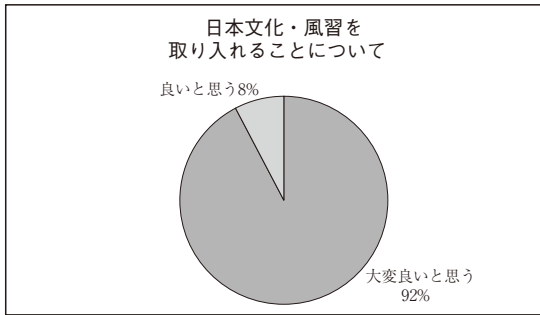
幼児も一緒なので、集中して出来るかが問題に。全項目に渡り関わっているため、書ききれない。やる気のない生徒たちをどう引き込むか。

3.本日のセミナーはいかがでしたか。



- ・とてもいいセミナーでした!!!また是非参加したいです。
- ・楽しかったです!!
- ・日本文化は子供の身体に染み付いているものなので、それを英語で扱うことで抵抗なく自然と英語が入ってくると思いました。
- ・例えば、箸の使い方を実際に外国の人たちに教えられるチャンスがあったら本当に生きた会話になるし、知った甲斐もあるが、なかなかそのチャンスがない。日本の習慣や文化を知ったり勉強したりするのはとても意義があると思うが、普段の生活を英語の授業の中で“やった甲斐”を持たせたいと思いました。
- ・身近にあるマナーを活用して、子供達に英語に触れさせる活動を学ぶ（知る）ことができよかったです。今日、学んだことが今後も使うことが出来たら、やってみたいと思います。それまでは、私自身も日ごろから今日やった活動を一日の生活に取り入れていきたいです。
- ・日本の昔話や桃太郎など、とても分かりやすく楽しかったです。
- ・ALT、ネイティブでなくても頑張って英語を教える意欲が湧いてきました。

4.日本の文化、風習を英語の授業に取り入れることをどう思いますか。



- ・新しいことを少しずつ入れると楽しめる。
- ・日本の文化について知ること、そして外国へ発信することは私たちにも難しいので、是非いろいろなことを教えてください。

5.いままでに私どものセミナーでご紹介した内容で実際にクラスで使ったものがありましたら、どの学年に使い、反応はどのようであったかをご記入ください。

- ・おちゃらかほい←すぐく盛り上がりました。
- ・おにぎりチャンツで、おにぎりを作って持ってきた。
- ・“Hello” song, everybody jump←高学年で大変に人気があり、授業のたびにリクエストがありました。
- ・チャンツは覚えやすく、反応が良い
- ・Make a Onigiri. 子供達はとても楽しそうに活動していました。

6.今後どのようなセミナーを希望しますか。



箸の使い方を英語で説明してみよう
ブライアン・バード講師 (右)

- ・具体的な授業展開の事例を知りたい。

クラスルームEnglish、教材、テキストの使い方、学年別の授業に求められることは何か？

- ・warm-upの歌の活動でどのような歌を活用したらいいのかを教えてください。
- ・日本文化を英語でたくさん伝えられるようになります。(子供と共有できるように)
- ・さらに実践に役立つアクティビティーをご紹介します。
- ・子供達の身近な事がとても良いと思います。英語ノートを楽しく使える授業展開。
- ・英語ノートを楽しく指導できるよう関連したチャンツ、アクティビティーなど。
- ・今回のようなセミナーをまた続けてほしい。
- ・日本文化 (おりがみや絵本)、チャンツ
- ・アクティビティや歌をたくさん教えてください。
- ・楽しくすぐに役立つ本日のようなセミナー。
- ・日本の文化を紹介するレッスン
英語ノートを使った指導、活動内容 (アレンジしたものがあれば)
- ・評価の仕方、教材と英語ノートとの併用について。



箸遣いのマナーを英語で伝えよう
藤原真知子講師 (中央)

7.その他なんでもお書きください。

- ・2時間はあっという間でした。もう少し長い時間でもよいと思います。
- ・もっと長い時間のレッスンを受けたい。2時間は短かったです。
- ・とても楽しく、役立ちます。今後もたくさん教えていただければと思います。
- ・楽しい雰囲気です。明るい気持ちになりました。ちょっとした時の英語、例えば終わりのときの



実際の授業で使われている教材も展示された。

バード先生の♪ears listening mouth～♪などは、ALTの先生ならではのすぐよかったです。ありがとうございました。

- ・とても役に立ちました。
- ・また参加したいです。いろんなことをチャンツでやるのがとてもいいと思いました。英語ノートのチャンツはリズムに乗りにくいがある。
- ・日本文化は以前から授業に取り入れたいと考えていたのですが、なかなか自分で教材開発をするのが難しいので、今日はお箸の使い方について知ることができ、とてもよかったです。
- ・本当にありがとうございました。明るくて楽しいレッスンでした。
- ・「よいしょ!!」などの英語の言葉が参考になりました。
- ・日本の文化・風習を英語で知らせる資料を集めたい。(海外と交流するとき重要になる)
箸の前に鉛筆の持ち方を指導したい。
教育委員会主催の研修会(出張扱い)にこのような研修会がたくさんあったら良い。
- ・毎年セミナーを開催してもらいたい。そのお知らせを葉書などで知らせてほしい。
いつもブライアン先生と真知子先生の2人のペアのworkセミナーが楽しく、分かりやすく、子どもに親しみやすいもので、実際の教室にも使えそうでとても良いです。またぜひ先生たちのセミナーに参加したいです。